

## 中池見湿地で確認されたナタネキバサナギガイ *Vertigo eogea eogea* Pilsbry, 1919について

藤野 勇馬\*・金尾 滋史\*\*

A record of *Vertigo eogea eogea* in Fukui Prefecture,  
collected from Nakaikemi Marsh, Tsuruga city  
Yuma, FUJINO\* and Shigefumi KANAOK\*\*

(要旨) 福井県敦賀市にある中池見湿地において、陸産貝類の一種であるナタネキバサナギガイの生息を確認した。本種は福井県内において1953年以降確認がされていなかった種である。本種は環境省レッドデータブック2014において絶滅危惧II類 (VU) に位置付けられており、中池見湿地内では、主にヨシやヤナギが生育する水辺移行帯に生息していた。

キーワード：中池見湿地、ナタネキバサナギガイ、水辺移行帯

### 1 はじめに

福井県敦賀市に位置する中池見湿地は国内においても生物多様性の高い湿地として注目されており、これまでも様々な生物の調査が実施されてきた(野原・河野, 2003)。その結果、昆虫では約1700種が、植物では約600種が記録され(野原・河野, 2003)、特にトンボ類についてはこれまでの記録である71種に加え(藤野・和田, 2011)、近年ではさらに追加種も記録されるなど(NPO法人中池見ねっと, 未発表)、国内でも有数の生息地であると考えられている。このほかの水生昆虫や魚類についても多くの種が確認されてきた(平井ほか, 2013; 山野ほか, 2013)。

このように中池見湿地ではこれまで多くの分類群について調査が行われてきたが、貝類については陸産貝類、淡水貝類いずれも知見が乏しかった。そのような中、筆者の一人である藤野は2010年以降、継続して同湿地内における貝類の調査を実施してきた。その結果、福井県では初記録となり、環境省レッドデータブック2014において絶滅危惧II類 (VU) に位置づけられているミズコハクガイ *Gyraulus soritai* が発見されるなど、新たな知見が蓄積されつつある(藤野・金尾, 2012; 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014)。

今回はさらに、これまでの調査において、過去に福井県内ではほとんど記録がなかった陸産貝類、ナタネキバサナギガイ *Vertigo eogea eogea* Pilsbry, 1919を中池

見湿地内で発見し、それらが継続して生息することを確認したので、その概要を報告する。

### 2 中池見湿地におけるナタネキバサナギガイの生息状況

ナタネキバサナギガイは柄眼目キバサナギガイ科の陸産貝類で、殻高約2~3mmと非常に小型の種ではあるが、殻が太短いことと、殻口内の歯が多いことで同属他種と区別することができる(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014)。また、本種は環境省レッドデータブック2014では絶滅危惧II類 (VU) に、福井県レッドデータブックでは県域絶滅危惧II類に位置づけられている(福井県福祉環境部自然保護課, 2002; 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014)。

中池見湿地内において本種が初めて発見されたのは2010年10月22日であった。この際には湿地内の落葉や木片などの底質の堆積物を採集した際に個体が付着していた(図1, 図2)。その後の調査により、本種は中池見湿地内においても特に十分な湿り気があり、ヨシやヤナギが生育し、それらの落葉が堆積した場所や倒木の裏などに多く生息していることが明らかになった(図3)。このような環境は、降雨により冠水し、水位が10cm~20cmほど上昇することがあったが、その際には、ナタネキバサナギガイが高茎草本や杭に這い上

\* 滋賀大学教育学部 〒914-0056 福井県敦賀市津内町1丁目10-11

\* Faculty of Education, Shiga University, Tsunai 1-10-11 Tsuruga, Fukui 914-0056, Japan

\*\* 滋賀県立琵琶湖博物館 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

\*\* Lake Biwa Museum, 1091 Oroshimo, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

がる様子が観察された。そのため、本種の生息には休耕田や湿性草地など年間を通して長期間水没しない、かつ乾燥しすぎない環境が必要不可欠であると考えられる。このことから、本種は陸域と水域双方の環境を有する水辺移行帯の指標としても重要であると考えられている(滋賀県生き物総合調査委員会, 2011)。なお、このような環境では本種のみが単独で確認されることはなく、ミズコハクガイやナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* が同所的に確認された。

福井県におけるナタネキバサナギガイの記録はこれまで1953年4月に敦賀市杉津において記録が残されているのみで、近年、福井県内において本種が生息しているという確実な知見はなかった(福井県自然環境保全調査研究会, 1998; 福井県福祉環境部自然保護課, 2002)。また、それらの文献ではナタネキバサナギガイの生息環境について「アシやガマが繁茂した平野部の休耕田や湿原や柑橘類の木の根元の落葉やササ藪の根元」としているが、少なくとも中池見湿地内においては柑橘類やササ藪の根元で発見されたことはなく、抽水植物などが生育する環境で確認された。

中池見湿地内は伏流水の湧出点や湿性高茎草地、人為的な環境ではあるが水田や休耕田、素掘りの水路など様々な環境が存在し、それぞれに異なった水深や植生がモザイク状に分布している。その中でも本種が生息する環境には、特にオオニガナやサワオグルマといった中池見湿地を代表する植物が繁茂しており、また、水中にはミズコハクガイなど他の希少な貝類も生息している。中池見の生物多様性を維持するためにも、このような水辺移行帯の保全は非常に重要であると考えられる。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、中池見人と自然のふれあいの里およびNPO法人中池見ねっとの皆様には、中池見湿地内における淡水貝類の調査に関してご理解・ご協力をいただいた。福井市自然史博物館の梅村信哉氏には本稿を投稿するにあたり、様々な便宜を図っていただいた。これらの方々には深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- 藤野勇馬・和田茂樹, 2011, 福井県敦賀市中池見湿地におけるキトンボの記録. 福井市自然史博物館研究報告, (58), 65-66.
- 藤野勇馬・金尾滋史, 2012, 中池見湿地で確認された福井県初記録の淡水貝類4種. 福井市自然史博物館研究報告, (59), 47-50.
- 福井県福祉環境部自然保護課, 2002, 福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック (動物編). 福井県福祉環境部自然保護課, 243p.
- 福井県自然環境保全調査研究会両生類・爬虫類・陸産貝類

- 部会, 1998, 福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録. 福井県県民生活部自然保護課, 141p.
- 平井規央・森岡賢史・石井 実, 2013, 中池見湿地における水生動物の多様性とその変化. 地域自然史と保全, 35(1), 11-16.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014, レッドデータブック2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物-6 貝類. ぎょうせい, 455p.
- 野原精一・河野昭一, 2003, 福井県敦賀市中池見湿地総合学術調査報告. 国立環境研究所報告, (176), 国立環境研究所, 8pls+ix+387p.
- 滋賀県生きもの総合調査委員会, 2011, 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック2010年版-. サンライズ出版, 584p.
- 山野ひとみ・増田 茂・北川哲郎・武内啓明・川瀬成吾・野口亮太・小西雅樹・田中大喜・森下 匠・池田昌史・井藤大樹・乾 偉大・小田優花・細谷和海, 2013, 福井県中池見湿地に生息する淡水魚類. 地域自然史と保全, 35(1), 53-60.



図1: 中池見湿地で確認されたナタネキバサナギガイ (生体写真)



図2: 中池見湿地で確認されたナタネキバサナギガイ (標本写真)



図3: ナタネキバサナギガイの生息環境